

着物 リサイクル 毎月25日号掲載

# 春夏秋冬

第186回  
きものや じゃぼん

実はこの代表を務めた山口君を紹介してくれたのが、京都でリサイクル着物物店「ichimanben(いちまんべん)」を立ち上げた初期メンバーの大津君であった。

2月5日、博多の天神ビブレ2階で「Tokyo135」の9店舗目が開業した。約10年前に原宿で産声をあげたこのレーベルは、中央大学商学部の秋澤光教授の起業家ゼミの3年生メンバー数名が中心になって立ち上げたショップである。

「日本の中心からきもの文化を世界に発信する！」がショップの立上げコンセプトだ。

「ichimanben」は約13年前に京都大学内にあるNPOアイセックの中の「京都きもの企画」と言つサークルが、たんとす屋とコラボして誕生したショップである。当時京都大学経済学部3年生の石田君が、サークルの代表で大津君が副代表。国際交流を通しての世界平和の実現」と言つアイセックのミッションに沿って、留学生と京都の四季を着物で楽しむ事を目的に出来たサークルであった。



2月5日博多にオープンした「Tokyo135」天神ビブレ店

大学生や留学生は高額な着物は買えないので、一万円程で着物と帯が揃えられるショップを自分達の手で運営したいと思いついたのが「ichimanben」

## 素人目線のプロレーベル

# 桜美林大生と着物プロジェクト

「en」ある。コンセプトは「一万円ぐらいのきものを一万遍ぐらい着てみたい」で、一万遍は京都大学のキャンパスがある地名の百万遍をもじったそう。オープンして数年後には弊社の直営店になったが、現在も京都三条柳馬場に「ichimanben」のショップ名で繁盛店として存在している。

### 講義に関する

#### その場で立ち上げ

この様に、今までも大学生とのアライアンスで若者向けのショップが誕生してきたが、このたび桜美林大学の学生さん達と、新たなショップを立ち上げる事になった。

きっかけは、私が桜美林大学、川西重忠教授の講座「日本の経営者」に3回呼び頂

き、講義をさせて頂いた事である。この講座は数年継続している人気講座で、毎回受講生が増え続け今では複数の学部から三百数十名が参加している。講義を終えて川西先生の部屋に戻ると、私の講義に関心を持ってくれた学生数名が集まって話が盛り上がり、その場で「桜美林きものプロジェクト(OKP)」が立ち上がった。

OKPの代表は着物好きの3年生・角田遥奈さんが就任し、1年生の山本さん、佐藤さん、OKPのインチャルメンバーになった。彼女らの思いは色々あるが、まとめると以下のような感じだ。

①着物に関心があるが、敷居が高いのでOKPをきっかけに身近なものにしたい。

②同世代の若者の中にも着物にアコガれる気持ちがある。彼ら彼女らにも着物体験を通して日本文化を知ってもらいたい。

③桜美林大学は北京で開校した歴史もあり、大学には中国人を筆頭に留学生が多く在籍している。彼ら彼女らにも着物体験を通して日本文化を知ってもらいたい。

④上智大学の浴衣デパートが複数のメディアに取り上げられ全国区で有名になった様に、桜美林大学も名物着物イベントを創りたい。

⑤現役大学生でないからOKPで起業を擬似体験してみたい。

### 起業を目指す

#### 学生達の共通点

以前の京大生、中大生達との共通点は、自分達の消費者目線・同世代の若者をターゲット・留学生・外国人も巻き込みたい・日本文

化の素晴らしさの再発見・アントレプレナーシップ(起業家スピリッツ)、この様なキーワードの様である。彼女らがユーザー目線と起業家スピリッツを持った上で、着物のプロの我々とアライアンスを組む事は双方に大きなメリットが生まれる。経験が乏しく資金の無い学生はその道のプロと組む事で、ショップを立ち上げるまでの多くの障害を乗り越えられる。我々はリアルユーザーを巻き込むことで、よりリアルなMD(マーチヤング)が可能な。結果、素人目線のプロレーベルを誕生するポテンシャルが高まるのである。

OKPのメンバーとミーティングを重ねた結果、いくつかの事が決定した。

①ショップ名は「きものや じゃぼん」②出店場所は町田の109地下一階③出店時期は3月3日④弊社担当は営業部上村係長⑤店長は角田さん、副店長は田嶋君⑥立ち上げは「きものや じゃぼん」が京大生の生んだ「Tokyo135」を凌駕するレーベルに育つ事を、いかに夢見ていますが、いかがだろうか。



東京山喜 (店名・たんす屋)

中村 健一 社長

1954年9月京都市生まれ。77年カリフォルニア州立大学ロングビーチ校留学、79年慶応義塾大学卒業。同年東京山喜入社、87年取締役京都支店長、91年常務、93年社長に就任、今に至る。